

(議長)

次に、小梅議員の発言を許可致します。

「小梅議員」

はい。

(議長)

「小梅議員」。

「小梅議員」

はい。

昨年の9月に初めてこの場に立たせて頂きまして、ちょうど1年が過ぎました。その時にお尋ねした件でございますが、まちづくりということでもございましたけれども、それに関しまして最近ちょっと気になっていることを2、3点お尋ねしたいと思います。

その時に、今後のまちづくり懇話会のテーマを幅広く捉えて、中高生との懇談の場を設けたい、子どもたちの発想とか、女性の日々の生活の中からの意見など聞く機会を設けたいというお答えを、町長さんとまちづくり推進課の方から頂きましたが、その後の実態はどうなっているのか。またそういう風に機会は設けられたのか、ちょっとお聞かせ願いたいと思います。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

小梅議員の1問目、まちづくりについて3点程お伺い、ご質問されておりますけれども、①番と③番について私から、そして②番は教育長からご答弁申し上げます。

①

「小梅議員」

あ、それだったら全部言うのでしたけど。

「町長」

あ、そうですか。

「小梅議員」

とりあえず先の1の部分だけ言ったのですが、続けて全部言った方がいいですか。

ごめんなさい。

(議長)

休憩。

(休憩中)

(議長)

休憩を閉じて再開して、小梅議員改めて質問をお願いします。

「小梅議員」

はい、すみません。宜しいですか。

(議長)

はい、いいですよ。

「小梅議員」。

「小梅議員」

それではさっき1点だけ申しましたけど、あと2点ほど続けてお願い致します。

あの関連していますけど。7月の末に檜山管内7町から参加の中高生が1泊2日の合宿で交流を深めながら地域の課題を考えるイベントが振興局で開かれて、それぞれにまちの活性化など提言したと新聞記事で読みました。ジュニアリーダーコースin檜山というイベントだそうなのですが、江差の生徒はゴミのことを指摘していました。その時に、これほど町のことを真剣に考えたのは初めてで、自分たちのアイディアを是非実現して欲しいというコメントも載っていてとっても大事なことだなと感心しました。その中高生たちの提案した内容は、各町の広報誌などで紹介されるとありましたが、江差町でもその予定はありますでしょうか。貴重な意見として是非取り上げて欲しいと思えますがいかがでしょうか。これが2点目でございます。

それから3点目。今、まちづくりカフェというのが地域支え合い講演会、意見交換会として地域包括支援係によって継続的に開催されております。6月、7月と2回が終わりまして、3回目がこの20日の予定と広報にも案内が載っております。これは本当に今までにない画期的なやり方で感心しております。継続的というのが今までにないことです。ほとんど何かの講演会でも1回切り、何十分かの講師の先生のお話で、その場限りで終わってしまって、このあと何なのだろうなって反省することがしきりだったのでございますけど。このやり方は本当にあの感心しております。私も毎回参加していますけれども、小石先生のお話もとても楽しくてだれでも気軽に話せる雰囲気です。話の内容も

とっても充実していて、本当に居心地の良い場所なのに、残念ながら参加者がいまいち少ないのです。30人足らずより集まっていないです。本当にさびしいなあ、残念だなんて、もったいないなんていう気持ちでいっぱい、この際、包括だけじゃなくて、他の課のまちづくり推進とか観光課など、全部の課の協力を頂きながら、盛り上がっていくのが大事でないかなって思っています。包括がやっているから、包括イコール介護って感じが、住民が捉えていて、それが何かちょっと敬遠されている理由にもなっているようですので、もっともっと他の課も協力して一体で盛り上がっていくべきだなんて、本当に残念な集まりです。もっともっとたくさんの人に参加して欲しいし、聞いて欲しいし喋って欲しいし、この辺が町づくりの原点じゃないかなって考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

(議長)

はい、「町長」。

「町長」

改めまして、小梅議員の1問目まちづくりについて①と③私から答弁申し上げます。

昨年の第3回江差町定例会でも答弁したとおり、まちづくりを進めていく上で、女性や子どもの視点は欠かせないものと認識しております。このため、昨年12月に総合的な学習の時間を活用して、南が丘小学校の6年生を対象に江差、本町のまちづくりをテーマとした学習の機会を設けて頂いたところであります。また、町内の全小中学校を私が訪問し学校給食を共にしながら、学校生活の様子や町に対する意見等を幅広く伺っております。

更に地域の様々な行事に積極的に参加し地域とのふれあいを尊重しながら、色々な方々から役場やまちづくりに関する意見を頂いております。

加えて町外から転入して来られた方々の意見も大変貴重なものであり、役場窓口へ転入者へのアンケートを設け、まちづくりに期待する意見等を徴する仕組み作りもおこなっているところであります。これらの意見は聞きっぱなしで終わることのないよう所管課に伝えているとともに、伝えていると共に早期に対応が必要なものについては、適宜対処して参りました。

一方で女性の意見を聞く機会については、農協や漁協、商工会など団体の女性部との懇談はあるものの、一般の方々を対象とした懇談については現段階では実施出来ておりません。今後はまちづくり懇話会等で女性が参加しやすいテーマを設けるなど、工夫を凝らして参りたいと思いますので、ご理解願えればと思います。

③まちづくりカフェの実施方法についてのご質問でございます。まちづくりカフェは通い慣れたカフェでお茶を飲みながらおしゃべりを楽しむように、参加者同士が地域課題に対して自由に語り合い、世代を超えてお互いがお互いを支え合うまちづくり、町民

が主体的に出来る活動への足がかりになることを目的としております。

また江差ソーシャルクリニックの一環として、北海道教育大学函館校の協力を頂き、継続的に行うことで、前回の振り返りをしながらステップを重ねているところがございます。現在2回目が終了し、9月20日に開催する3回目に向けて若い世代の参加者の拡大や、互いに支え合う互助の体制作りについて内部協議、協議を重ねているところがございます。互助の体制作りには、町民の主体性が重要であり、その気運を盛り上げる関わり方が必要と考えております。

また地域課題も多岐に渡るため議員ご指摘の通り、関係各部署が連携を図り、世代を超えた互助の体制作り、地域包括ケアシステムの構築に向けて、構築に向けて参りたいと考えておりますのでご理解願えればと思います。

(議長)

はい、「教育長」。

「教育長」

2番目のご質問について、ご答弁を申し上げたいと思います。

8月の2日付で、北海道新聞朝刊記事で紹介されました北海道教育委員会が主催し、檜山教育局主幹で7月の28日、29日に開催されたジュニアリーダーコースin檜山に関するご質問でございました。

実はこの事業は、毎年開催されているものでございます。北海道教育委員会のこの事業を実施する目的として、中学生・高校生が様々な地域等との交流、地域課題の解決に向けたアクションプランづくり等を通して地域の良さを客観的に見つめる視野や、ボランティア活動などの地域活動に主体的に参画する意欲などを身につけることとしております。

ただ、必ずしも各町の広報に載せなきゃならないと、そういう部分でないです。ただしかし、議員もご指摘の通り、事業の趣旨上、江差町としても大変有益と考えまして、町内から毎年2名の中学生を派遣しているものでございます。今年の2名は地域課題として、町の大切な海にごみが多くその対策をどうするかという点について、町への提案内容をまとめられたと聞いてございます。

なお、この研修は7月末におこなわれた本研修に続きまして、事後研修が予定されており、広報誌への掲載などはそれらの状況を見ながら検討して参りたいと考えておりますので、ご理解を頂ければと思います。

「小梅議員」

はい、わかりました。

(議長)

はい、「小梅議員」。

「小梅議員」

はい、わかりました。でもやっぱり意見とかそういうのは皆さんに聞かせたいと思います。

話し合いの場も、色々とう町長さんも出向いて歩いて色々聞いているようでそれはよく分かりました。でも今回の広報の中でお知らせ、まちづくりカフェの案内すごく良いなって思いました。これは質問でも何でもないのですけれども、6月7月の案内の中では、参加者対象は暮らしやすいところに住みたいと思う方って、ただそういう書き方でものすごく抽象的な書き方でした。でも今回の9月の募集の方には、中高年から高齢者まで全世代の方の感性が必要です。親子で遊びに来てください。こういう風にかかれていまして、ああいいなって思いました。これで少しはこう参加者も増えるのかなと思って喜んでます。皆さんもぜひ職員の方も議員さんの方々も皆さん1人ずつでもお誘いあって、是非参加して盛り上げていっていただければありがたいなと思います。

次の質問いっていいですか。

(議長)

2問目。

「小梅議員」

はい。

(議長)

今、答弁いららないですか。

「小梅議員」

はい。

(議長)

うん。そしたら2問目。

「小梅議員」。2問目に入ってください。

「小梅議員」

はい、それでは2問目、かもめ島祭りでございます。

祭りの千人パレードについてちょっと伺います。今年の島祭りは、あいにくの天候で本当に残念なことでした。千人パレードも中止になりました。主催者の方は、踊り手の確保に奔走されているようでご苦労の程が分かります。人口減少とか高齢化によりまして、踊り参加者も年々少なくなりまして、千人パレードと呼ぶにはふさわしくない状態になってきています。踊りは続けるにしても、千人パレードという呼称、呼び方は変えた方がいいのではないかなって思いました。

といいながらまた、参加者を増やす努力も必要です。高校生の場合、3年生が今参加していますけれども、全校生徒にというのは無理なのかな。それよりも中学生の参加は考えられないのかなと思ってみました。子どもたちが出るってということによって、たくさんのお年寄りとかも孫さんを見るとかっていって見物人も多くなりまして、町の賑わいにも繋がるから良いことだなと思うんですけど、学校とかの兼ね合いもあって難しいのかなと思いつつも実現できればいいなと思ってちょっと提案してみたいと思います。

それから踊りのコースについてです。上町から島に向かう坂道はきつい。あの特に下り坂は膝の悪い人には非常に難儀との声が多くなって、それが不参加の理由にもなっています。そこで、平らなにしえ街道を行進するのも1つの策かなと思いますが、いかがでしょうか。以上です。

(議長)

はい。

「町長」

議長。

(議長)

はい、「町長」。

「室井議員」

良い答弁してね。

「町長」

小梅議員の2問目、かもめ島千人パレードについてのご質問でございます。

かもめ島祭りにつきましては主催者が江差観光コンベンション協会となっております。現在、追分観光課内に江差観光コンベンション協会の事務局も併設となっていることから、議員ご提言の件につきましては、協会の理事会に対し、事務局から来年度の検討課題として、呼称の変更、中学生の参加、コースのあり方等、来年度に向けた千人パレードの活性化策として協議して頂けるよう要望して参りたいと考えております。

また参加者が減少していることを踏まえ、より一層、各町内会や事業所、学校などに対しまして気軽に参加できる仕組み作りに向けた協議を町と、町と致しましても観光コンベンション協会とも連携した形で協議して参りたいと考えておりますので、ご理解願えればと思います。

「小梅議員」

はい。分かりました。宜しくお願ひ致します。じゃあ終わらせて頂きます。

(議長)

以上で、小梅議員の質疑を終わります。